



2020年1月10日

各 位

会 社 名 三井倉庫ホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 古賀 博文
 (コード:9302、東証第1部)
 問合せ先 執行役員経理部長 松井 博文
 (TEL.03-6400-8006)

第18回無担保社債(三井倉庫ホールディングスグリーンボンド)発行に関するお知らせ

当社は、国内市場において公募形式によるグリーンボンド(第18回無担保社債・別称:三井倉庫ホールディングスグリーンボンド)を本年3月に発行することを予定しておりますので、お知らせいたします。グリーンボンドとは、調達資金の用途を環境改善効果のある事業(グリーンプロジェクト)に限定して発行する債券となります。

物流会社(注1)が環境負荷低減に配慮した物流施設の建設資金としてグリーンボンドを発行するのは国内初の事例となります。

記

1. 本グリーンボンド発行の目的及び背景

当社グループは「物流から価値を」というビジョンの下、2005年に策定した環境方針を基に、CASBEE(建築環境総合性評価システム)ランクA評価の高い環境性を備えた施設の建築や、施設屋上の緑化および太陽光パネルの設置、グリーン経営認証取得、国土交通省等が提唱する「ホワイト物流」推進運動にも賛同するなど、事業を通じた環境保全の活動に取り組んでいます。

今年度は5ヶ年計画である「中期経営計画2017」の3年目であり、翌年度からの残り2年間では、持続的成長に向けて圧倒的な現場力の構築や統合ソリューションサービスの進化に加え、物流という重要な社会インフラを担う企業として社会的責任を果たすため、ESG経営を推進してまいります。

その具体的な取組みとして、当社グループの成長領域である医薬品・医療機器業界を中心としたヘルスケア事業専用の物流施設「関東P&MセンターII(仮称)」を2021年6月に新設する予定であります。

当該物流施設は免震構造や自家発電設備など、非常時においても事業を安定的に継続させるために必要な最新設備を実装するとともに、太陽光発電や高規格のトラックバースなど物流業務の省力化や環境負荷の低減にも配慮した環境性の高いものとなりますので、その建設費用をグリーンボンドの発行により調達することといたしました。

(注1)TOPIXの33業種区分のうち「倉庫・運輸」「陸運業」「空運業」「海運業」を「物流会社」と定義しております。

2. グリーンボンドの概要

発行年限	10年以内
発行額	50億円
発行時期	2020年3月予定
資金使途	子会社が建設する「関東P&MセンターII(仮称)」の建設費用(CASBEE認証ランクB+(良い)またはランクA(大変良い)を取得予定)の転貸資金
主幹事	SMBC日興証券株式会社、野村証券株式会社
Green Bond Structuring Agent	SMBC日興証券株式会社

3. 関東P&Mセンター II (仮称)の概要



上記のビジュアルは完成時を想定したイメージ図となります。図手前の施設が本グリーンボンドの対象プロジェクトとなる関東P&Mセンター II (仮称)、図奥の施設は2015年9月竣工、現在稼働中の関東P&Mセンターとなります。

関東P&Mセンター II (仮称)概要

名称	関東P&Mセンター II (仮称)	
住所	埼玉県加須市芋荃 1248-12	
施設規模	地上4階建(倉庫3層)、延床面積 6,998 坪	
CASBEE(注1)	ランク B+(良い)または A(大変良い)を取得予定	
主な設備	環境対応	屋上太陽光発電 全館 LED 照明等
	BCP 対応	免震装置 自家発電装置(72 時間)等

(参考)稼働中の関東P&Mセンター概要

関東P&Mセンター
同左
3階建て、延床面積 5,900 坪
ランク A(大変良い)
屋上太陽光発電(300KW) 全館 LED 照明等
免震装置 自家発電装置(72 時間)等

(注1) 当社はサステナブル建築の適格クライテリアを「CASBEE(建築環境総合性能評価)ランク B+(良い)以上」と定義しております。

(注2) 「CASBEE(Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency/建築環境総合性能評価システム)不動産評価認証」とは、建築物の環境性能を評価し格付け(ランク C~ランク S)する手法で、省エネや省資源、リサイクル性能など環境負荷低減の側面に加え、景観への配慮なども含めた建築物の環境性能を総合的に評価するシステムです。

関東P&Mセンター II (仮称)に関する当社プレスリリース：https://msh.mitsui-soko.com/news/20191105_03

4. グリーンボンドとしての適格性について

グリーンボンドの適格性に関する第三者評価として、株式会社日本格付研究所(JCR)から、「JCRグリーンボンド評価」の最上位評価である「Green 1」の予備評価を取得しています。評価の詳細は以下からご覧いただけます。なお、評価の詳細は本日(2020年1月10日)15時30分頃のリリース予定となります。

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/green/>

また、本グリーンボンドに係る第三者評価を取得するに際し、JCRは一般社団法人グリーンファイナンス推進機構より環境省の2019年度グリーンボンド発行促進体制整備支援事業の補助金交付対象の交付決定通知を受領しています。

【参考情報】

当社グループが事業を通じて推進している「環境・社会」に配慮した主な取組み例は以下の通りです。

環境マネジメントの推進

「ホワイト物流」推進運動/自主行動宣言書を提出

三井倉庫グループは、国土交通省等が提唱する「ホワイト物流」推進運動の趣旨に賛同し、自主行動宣言書を提出いたしました。同運動は、トラック輸送の生産性の向上・物流の効率化、そして女性や高齢者なども活躍できる、よりジェンダーフリーで「ホワイト」な労働環境の実現を目指す運動です。**グループ全体で26社、計110件の取組み**（2019年9月30日現在）を推進することで、持続可能で安定的な物流サービスの確保・発展に貢献してまいります。



グリーン経営認証※の取得

当社グループは「グリーン経営認証」を、トラック事業においては16カ所、倉庫事業においては42カ所（2019年3月31日現在）で取得しています。

※グリーン経営認証とは、（公財）交通エコロジー・モビリティ財団が認証機関となり、グリーン経営推進マニュアルに基づいて一定のレベル以上の取組みを行っている事業者に対して、審査の上認証・登録を行うものです。

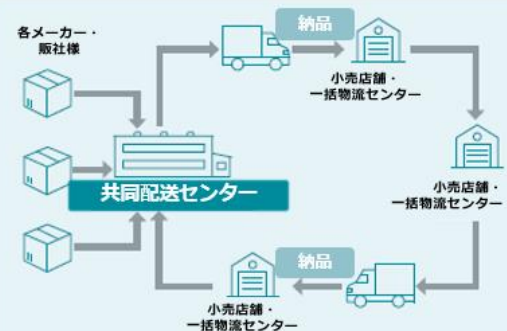


事業を通じた気候変動問題への対応

共同倉庫・共同配送の推進

当社グループは、荷主様や輸送業者が協働し集荷・配送を行うことで、輸配送車両・距離を減らし、CO2排出量削減、大気汚染低減を図る共同倉庫・共同配送を推進しています。

当社グループ会社において同業他社と協力し製配販連携ロジスティクスプラットフォームを構築し納品先への共同配送を推進した結果、2017年に一般社団法人日本物流団体連合会による「物流環境大賞」において物流環境特別賞を受賞しています。



(一例)

CASBEE※ランクAの取得

サステナブル建築として優良とみなされるランクA（大変良い）評価を、5物件で取得しています。

※CASBEE：建築環境総合性能評価システム



CASBEEのランクA取得、環境配慮型の三井倉庫（株）南本牧倉庫

CO₂排出量削減による環境負荷低減

倉庫の屋上緑化や太陽光パネル設置、ならびに低公害車の導入や社用車の電気自動車への切り替えにより、CO₂排出量の削減に貢献しております。



各種環境設備を導入した三井倉庫（株）関東P&Mセンター